

新競技、eスポーツに注目

「東京2020オリンピック」では、新競技のスケートボードが注目を浴びた。「若者に人気のストリート文化」程度の知識しかなかった筆者も、技の迫力や華麗さに魅了された。また、13歳の金メダリストをはじめ、各国の10代が大会を席卷したことに驚いた。

同じくティーンエイジャーが活躍する競技に「eスポーツ」がある。「エレクトロニック・スポーツ」の略でコンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦を、体を動かすこと以外の娯楽や競技も含む広義のスポーツとして捉えた名称である。2000年ごろからこの言葉が使われ始めた。20年のeスポーツの世界市場規模は1000億円以上で、各地で大会が開催されている。優勝賞金が数億円という海外の大会は珍しくなく、大金を手にする10代の優勝者もいる。

日本では早くに家庭用テレビゲームが浸透したこともあり、パソコンゲームが主流のeスポーツの普及が遅れたという。しかし、近年は盛り上がりを見せており、国もeスポーツ事業を後押ししている。経済産業省と連携してeスポーツの発展に取り組む一般社団法人「日本eスポーツ連合」は、スポンサー料や放映権、チケット販売等のゲーム産業としての国内市場規模を22年には約100億円に達すると予測している。

三重県では、10月16、17日に「全国都道府県対抗eスポーツ選手権2021MIE」の開催が予定されている。同選手権はeスポーツの全国大会で、都道府県や地域ブロック予選を勝ち抜いた代表チームが6タイトル9部門で競う。

県内企業の中にはeスポーツのクラブチーム設立や既存のクラブチームを支援する動きがみられる。また、eスポーツの紹介番組がFM三重で始まるなど、eスポーツの認知拡大に向けた動きが活発化している。今後、成長が期待される新しい競技にぜひ注目してほしい。

(会員事業部 研究員 鈴木 理可)

毎日新聞「三重～る経済」 2021年9月6日